

# 群馬銀行レポート 2023

GUNMA BANK REPORT

群馬銀行のご案内



# 私たちは「つなぐ」力で



## 群馬銀行レポート 2023

GUNMA BANK REPORT

群馬銀行のご案内

### 目次

頭取メッセージ	2
群馬銀行グループの活動	6
サステナビリティへの取り組み	10
社会貢献活動	13
財務情報ハイライト	14
非財務情報ハイライト	15
店舗の概要	16



## 会社概要

(2023年3月31日現在)

名称	株式会社群馬銀行 (The Gunma Bank, Ltd.)
設立	1932年9月
本店所在地	群馬県前橋市元総社町194番地
資本金	486億円
従業員数	2,903人 (除く、臨時雇用)
拠点数	国内159店舗 (群馬県内111、県外48) 海外1店舗 (ニューヨーク) 4事務所 (香港、上海、バンコク、ホーチミン)
子会社	国内8社
関連会社	国内1社
総資産	10兆6,331億円
預金	8兆537億円
貸出金	6兆497億円
純資産	4,733億円
総自己資本比率 (国際統一基準)	連結 13.82% 単体 13.23%
格付	日本格付研究所 (JCR) AA 格付投資情報センター (R&I) A+ ムーディーズ (Moody's) A3 スタンダード&プアーズ (S&P) A-



(注) 連結従業員数3,061人  
(群馬銀行単体2,860人、子会社等201人)  
なお群馬銀行単体2,860人は「海外現地採用および受入出向者」を含み、「出向者」等を除いた就業ベースの従業員数。

# 頭取メッセージ



持続可能な  
地域の未来のために  
パーパスの実現を目指す

2023年7月  
代表取締役 頭取

深井 彰彦

## はじめに

一人ひとりが自律的に行動し、  
変化に富んだ時代に対応していく

2022年度は、中期経営計画「Innovation for “Purpose”」がスタートしました。欧米の金利引き上げ等による影響もありましたが、決算および諸施策ともに総じて順調に進捗することができ、ご支援いただいた皆さまに感謝申し上げます。

さて、足元では新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けが「5類」に移行したことや、賃金の引き上げを背景として消費の押し上げが期待されます。一方で、世界的な物価の上昇や欧米の金融政策に伴う景気への影響、ウクライナ問題をはじめとする地政学リスク等により、私たちを取り巻く環境は不確実な状況が続いています。また、デジタルを中心としたテクノロジーの進化は、つい最近まで常識であったことが瞬く間に非常識となるような、変化に富んだ時代をもたらしていると認識しています。

地域に目を向けますと、企業の経営上の課題として、足下では原材料費の値上がりや人材確保が上位に位置付けられています。中長期的に見ると、人口減少への対応や環境分野への対応も避けて通ることができません。

こうした環境の不確実性とさまざまな地域課題に直面し、私たちは、地域社会やお客さまにとっての価値は何かを日々考え、役職員一人ひとりが自律的に行動していくことが欠かせません。変化のサイクルが早く、お客さまのニーズも多様化していることから、一人ひとりがしっかりとそのニーズを把握して対処していくことが重要であると考えています。ただし、自律的に行動することと、目的を持たずに各自がバラバラに行動することは同義ではありません。組織としてどんなゴールを目指すのか、その拠り所となるのが2021年11月に制定したパーパス「私たちは『つなぐ』力で地域の未来をつむぎます」です。

## ■ パーパス制定から1年半 行内に生まれた変化

パーパスを「日常の営業活動そのもの」へ

2021年11月に制定して以来、グループ内への浸透と役職員への「自分ごと化」を図ってきましたが、これを成し遂げるには2つのアプローチが重要だと考えています。

1つめは、トップがパーパスの意義を発信し続けることです。当行では、「行員向けIR」と呼ぶ動画番組に私が出演し、定期的に経営状況や主要施策の意義を全役職員に説明していますが、その番組の中で、特に若手行員に対して銀行の施策がパーパスに基づいて進んでいることを分かりやすく伝えるように意識しています。同様にマネージャー層への発信も重要であり、4月に開催した支店長会議でも、パーパスにおいて社会的価値と経済的価値は両輪であることを改めて徹底しました。銀行都合のプロダクトアウト型の営業に終始しては持続的ではありませんし、社会にとって良いことでも適切な収益を上げられなければ必ずしも持続的であるとは言えません。社会やお客さまに貢献した結果として、適切な収益を得るという基本的な考え方は、パーパスに基づく営業活動の観点から極めて重要だと考えています。

2つめは、行内のさまざまな仕組みや施策とパーパスを関連付け、日々の行動に落とし込むことです。私たちのパーパスの要諦は、融資やコンサルティング業務など

の「つなぐ」活動を通して地域の未来を持続的にしていくことですが、これを成し遂げるには、お客さまにとって本当に必要なことを理解した上で、さまざまな「つなぐ」を提供することが重要です。こうした営業活動を浸透させるため、昨年の10月から「つなぐプロセス」という仕組みを導入しました。6か月間で2,548先の法人のお客さまと、新たに制定したヒアリングシートを活用して対話を深掘りし、7千件を超えるニーズを抽出できました。目先のニーズだけではなく、お客さまの将来的なゴールや大切にしている価値観まで遡って対話をし、長期的な視点に基づくニーズも含めて把握することが特徴で、それらのニーズに対してどのようなソリューションが提供できるかグループ一体となって取り組んでいます。

また、中期経営計画もパーパスを基軸として策定していますが、社会課題の解決と当行の収益双方に資する計数を「つなぐKPI」として設定しています。こうした計数の達成状況や、パーパスへの取組みに顕著な事例を表彰制度にも関連付けています。

パーパス制定から1年半が経過しましたが、私からの継続的な発信や、営業活動とパーパスの関連付けを通じて、役職員にとってパーパスは「額縁に飾ってある崇高なもの」から「日常の営業活動そのもの」に変化していると手応えを感じています。

## ■ 中期経営計画「Innovation for “Purpose”」の進捗状況と今後の課題

2022年4月よりスタートした中期経営計画「Innovation for “Purpose”」は、パーパスの実現に向けて3つの基本方針を掲げ、当行の強みである「つなぐ」力を強化することや、「つなぐ」力を発揮することに取り組んできました。1年が経過し、計画で掲げた主要施策は実施済みまたは着手済みであり、順調に進捗していると認識しています。ポイントとして捉えている「デジタル戦略」「グループ総合力」「アライアンス」「サステナビリティ」「人的資本」

についての取組み状況は、この後お話しします。

また、先ほどお話した「つなぐKPI」についても、ほぼ計画通りに進捗していると認識していますが、法人分野では中小企業向けのサステナブルファイナンス、個人分野では投資信託の残高について伸ばす余地が大きいと考えています。昨年の9月に開始した「SDGs 取組支援サービス」を活用することや、新NISA制度への対応を通して取組みを強化していきます。

## ■ デジタル戦略

中期経営計画では、デジタル戦略として3つの領域のデジタル化を掲げています。1つめは「地域のデジタル化」、2つめは「お客さま接点のデジタル化」、3つめは「行内業務のデジタル化」です。

### ① 地域のデジタル化

地域の人口減少や労働力不足が大きな課題となる中で、私たち地域金融機関が積極的に地域のデジタル化を進め、地域の生産性を向上させていくことも大きな役割であると認識しています。足元では中小企業のお客さまにDX支援を目的としたサービスをご案内するとともに、キャッシュレス加盟店の開拓も強化しています。また、2024年1月にはデビットカードの導入も予定し、デジタ

ル・キャッシュレスの流れを促進していきます。

### ② お客さま接点のデジタル化

チャンネルに関するお客さまのニーズは変化しており、デジタルと対面営業を効果的にミックスして当行グループならではの顧客体験を提供することが肝要だと考えています。デジタルチャンネルの核となるのが2022年4月にサービスを開始した「ぐんぎんアプリ」です。操作性の良さから好評をいただいております。利用者は1年間で15万人を超えました。また、法人向けには2023年7月に「ぐんぎんビジネスポータル」のサービスを開始しました。いずれも機能を継続的に追加するとともに、デジタルチャンネルと対面チャンネルの融合を進めていきます。

### ③ 行内業務のデジタル化

行内業務のデジタル化を進め、生産性を向上させていくこともテーマの一つです。具体的な取組みとしては、口座作成など店頭で時間を要する手続きを対象に「店頭タブレット」を2024年1月から導入する予定です。手続きの時間が短縮されれば、お客さまと当行双方に有益です。並行してOffice365の活用等を通してワークスタイルの変革も進めています。

こうした3つの領域のデジタル化と並行して整備しているのがデータ活用基盤です。行内外で収集したさまざまなデータを一元的に蓄積し、マーケティング等に活用していきます。デジタル化・キャッシュレス化・データの利活用を通じて、地域のエコシステムを構築していくことが、私たちの描く未来です。

## ■ グループ総合力の発揮

中期経営計画は、現在の深掘り（フォアキャスティング）と、めざす未来からの逆算（バックキャスティング）の両面からアプローチして策定しています。バックキャスティングの観点からポイントになるのが新事業を探索し、事業化していくことであり、戦略テーマとして「グループ総合力による新事業の探索と既存事業の深掘り」を掲げています。

### ぐんぎんコンサルティングの新事業

新事業として足元で特に力を入れて取り組んでいるのが「人材ソリューション事業」と「地域商社、マーケティング・広告事業」で、2023年4月から「ぐんぎんコンサルティング」に専任組織を新設して事業を開始しました。

もともと人材紹介業務は銀行で取扱いをしており、3年間で200件の成約目標（つなぐKPI）を掲げましたが、想定以上にニーズがあり、1年目で82件の実績を上げることができました。地域企業にとって人材の確保は極めて重要な経営課題だと考えており、ぐんぎんコンサルティングに専任組織を立ち上げ、サービスを拡大・高度

化していくこととしました。紹介予定派遣や当行グループの人材の向出・派遣なども順次開始していく予定です。

「地域商社、マーケティング・広告事業」として、地域の新しい商品やサービスを創出し、広く内外に発信していくことを目的とした購入型クラウドファンディングサイト「TSUNAGU+（つなぐプラス）」を開設します。また、当行からローン商品等に関するデジタルマーケティングや広告企画等の業務をぐんぎんコンサルティングに発注し、ノウハウを蓄積することで地域の事業者さま向けのマーケティングや広告事業につなげていきます。

### ぐんま地域共創パートナーズの取組み

ぐんま地域共創パートナーズによる象徴的な取組みとして、運営するぐんま地域共創ファンドを通じて株式会社JOETSUの全株式を取得しました。同社は各種印刷やWEBを活用したマーケティングを主業としています。株式取得の主な目的は事業承継支援によるものですが、同社やぐんぎんコンサルティングと協業することで地域のデジタル化を加速していきたいと考えています。

## ■ アライアンス等の連携強化

### 全国の地銀と複数の連携協定を締結し「つなぐ」力を強化

当行の経営戦略の特徴として、全国の地方銀行と複数の連携協定を締結していることが挙げられます。複数の連携協定の必要性についてご質問をいただくこともありますが、締結から一定の期間が経過し、それぞれの連携ならではの持ち味を十分に発揮できていると実感しています。

先ほど紹介した「ぐんぎんアプリ」は、TSUBASAアライアンス参加行と共同で開発したものですし、他にもノウハウの共有や人材の交流など定量では示しにくい価値を多角的に享受できています。群馬・第四北越アライア

ンスは、隣接する地域の2行間連携の持ち味を十分に発揮し、商品の共同開発や共同店舗の設置など多彩な連携で効果を上げています。りょうもう地域活性化パートナーシップは、重複する営業エリアを活かして地域全体の情報やお客さま同士をつなぎ合わせることで、新しい価値を生み出す事例がたくさん生まれています。フィンクロス・パートナーシップは、特にデータの利活用に関して分析や知見の習得を参加行が協力して進めています。

こうした連携により、パーパスのコンセプトである「つなぐ」力は格段に高まっていると考えており、パーパス実現に向けた大きな推進力になっていると実感しています。

## ■ サステナビリティへの取組み

### サステナビリティ委員会

気候変動を含むSDGsやESG等のサステナビリティに関する中長期的な視点による経営戦略の構築と各施策の実効性を高めるために2022年4月に設置した「サステナビリティ委員会」では、私が委員長を務め、サステナビリティに関する重要事項について協議を行っています。

### 脱炭素化の取組み

地域の環境課題解決に積極的に取り組むことで、脱炭素社会の実現や社会の持続的発展に貢献していくため、当行における温室効果ガス排出量削減目標を「2030年度ネットゼロ」としています。

脱炭素化に向けた主な取組みとして、ぐんま地域共創パートナーズが運営するぐんま地域共創ファンドを通じ、

再生可能エネルギー発電を中心事業とする地域発電会社「かんとう YAWARAGI エネルギー株式会社」を地域の事業者と共同で設立しました。当行では当社と PPA 契約を締結し、当行高崎田町支店と第四北越銀行高崎支店による共同店舗の屋上へ太陽光発電設備を設置します。

また、東京発電株式会社が運営する「尾瀬片品発電所」におけるネーミングライツを取得するとともに、同発電所で発電されたカーボンフリーの再生可能エネルギー電力を調達します。電力の供給開始は 2024 年 1 月の予定であり、こうしたスキームでの取組みは、国内金融機関では初めてと認識しています。また同時に、環境に配慮した EV（電気自動車）の全店導入を進めています。

#### サステナブルファイナンスへの取組み

地域のサステナビリティ実現に向け、環境・社会課題等への取組みをさらに進めていくため、2030 年度までの累計実行額目標を 1.5 兆円、うち環境分野を 1 兆円、2024 年度までの中期経営計画期間中の目標を 5 千億

円、うち環境分野を 3 千億円としています。2022 年度は 2,662 億円、うち環境分野 1,160 億円を実行し、お客さまのニーズも極めて高い分野であることが確認できました。

#### 自動車関連サプライヤーのお客さまのサステナビリティ向上に向けた取組み

当行は、地域の主要産業である自動車関連産業の持続可能性の向上にむけ、これまで県内サプライヤーのデータベースを構築するとともに、各社の保有技術・設備や特性などの個社別ヒアリングを進めてきました。また、2022 年 7 月、環境省が実施する「令和 4 年度 ESG 地域金融促進事業」の支援先金融機関として採択され、ヒアリング結果を踏まえたお客さまとの課題共有に向け支援を受けました。これらの取組みを発展させ、電動化への対応や生産性向上に向けたサポートなど、各サプライヤーに応じた中長期的な支援に向け、外部機関とも連携して取り組んでいきます。

## 人的資本の拡充

### 人材育成方針の制定

パーパスと中期経営計画を踏まえ、人材育成方針「パーパスの実現に向けて、一人ひとりの個人パーパスを起点とした自律的なキャリア形成と挑戦を支援し、人材の価値を向上させていきます。」を制定しました。冒頭で申し上げた通り、環境の不確実性とさまざまな地域課題に直面する中では、パーパスに基づいて自律的に行動し、お客さまの真のニーズに応えられる行員を育てていくことが欠かせません。

### 個人パーパスの実現を通してキャリア形成を図る

当行グループでは、全役職員が「個人パーパス」を設定しています。個人パーパスは、社会視点（社会のためにすべきこと）、銀行視点（パーパスに基づいてできること）、個人視点（個人として成し遂げたいこと）の 3 つの視点から作成してもらっています。人的資本の観点において、最も重要なのは個人視点です。自分は何を成し遂げたくて、どのように自身のキャリアデザインを描いていくのかという一人ひとりの思いがパーパス実現の原動力になると思うからです。その思いの創出やキャリアの実現を支援するためにさまざまな成長の機会を提供していきますし、チャレンジする役職員の努力に報いるこ

とができるジョブ型の人事制度への改定も予定していません（2024 年度）。新人事制度のコンセプトのひとつは「仕事の見える化」を図るということです。ポストの役割や、ポストを担うための必要なスキルを職務記述書で明示することにより、各自が自律的にキャリアをデザインすることがイメージしやすくなります。並行して役職員一人ひとりが希望する仕事や保有するスキルを表明する仕組みを整えることで「人材の見える化」を図ります。仕事と人材の見える化を進めることで「適所適材」を実現し、行員のエンゲージメントの向上、ひいては組織全体の活性化に繋がっていくと考えています。こうした人事制度への改定も見据え、役職員には、個人パーパスの実現に向けた行動を自身のキャリア形成につなげてほしい、と呼び掛けていますし、管理者には、部下がどのようなキャリアを目指していきたいか、個人パーパスを通じたコミュニケーションによって理解を深め支援してほしいと呼び掛けています。

当行では人材戦略に沿って複数の非財務 KPI を設定し開示していく予定ですが、当行ならではの指標としてエンゲージメントとともに個人パーパスの実践度合いを計測し開示していこうと考えています。

## おわりに

昨年の 11 月 20 日、当行は創立 90 周年を迎えることができました。皆さまのご支援に心から感謝いたします。

パーパスについて何度も触れてきましたが、地域社会やお客さまに対して私たちが提供する価値を「つなぐ」という言葉に込めています。私たちが群馬大同銀行として誕生した昭和初期、提供できる「つなぐ」は、お客さまのお金とお金をつなぐこと、すなわち金融仲介機能が中心でした。時代は流れ、今や私たちは、お金に限らず、

情報、ノウハウ、人材など多彩な「つなぐ」が提供できるようになりました。そして、これからも「つなぐ」の可能性は広がっていくでしょう。私たちは、どんな「つなぐ」ができるのか、行員一人ひとりが知恵を絞り、たくさんの「つなぐ」を積み重ねることで、豊かで持続的な地域の未来をつむいでいきたいと考えています。

最後になりますが、皆さまには、今後とも温かいご支援を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

# 群馬銀行グループの活動

## 法人のお客さまへの取組み

### つなぐプロセス

当行は、2022年10月より、お客さまとの対話から始まり、ゴール・ニーズの共有、そしてお客さまへの的確なソリューションの提供にいたるまでの一連の営業活動を「つなぐプロセス」として展開しています。お客さまのめざす姿（ゴール）や、将来に向けた事業の方向性、事業価値を生み出すストーリーを共有し、現在とのギャップを埋めるためのニーズと経営課題の把握を起点としたソリューション提案を実践しています。開始から6か月間で2,548先と面談し、7千件以上のニーズを抽出しました。



## 金融支援

当行は営業店・本部が一体となり金融の円滑化・経営改善支援に取り組んでいます。審査部審査業務室が中心となり、取引先に対する経営改善計画策定に関する支援や助言を行うとともに、支援にあたっては、中小企業活性化協議会、地域経済活性化支援機構などの外部機関や外部専門家とも連携し、支援の実効性を高めています。また、グループ会社のぐんぎんコンサルティングやぐんま地域共創パートナーズとも連携し、取引先の経営状況に応じ、再生ファンドや資本金借入金などの手法を活用した抜本的な再生支援にも取り組んでいます。

### 〈経営者保証に関するガイドラインへの対応〉

経営者保証については、「経営者保証に関するガイドライン」（2013年12月5日「経営者保証に関するガイドライン研究会」により公表）の趣旨を十分に踏まえ、お客さまと保証契約を締結する場合やお客さまから既存の保証契約の見直しのお申し入れがあった場合、また、お客さまが保証債務の整理を申し立てられた場合などには、本ガイドラインにもとづき、誠実かつ柔軟に対応するよう努めております。また、保証契約の締結にあたっては、何が十分でないために保証が必要なのか、どのような改善を図れば保証契約の変更・解除の可能性が高まるのかをお客さまに具体的に説明し、理解を得るよう努めております。さらに、当該対応が当行の融資慣行として浸透・定着するよう努め、担保・保証に過度に依存しない融資に取り組んでまいります。

## 本業支援

### ■ 人材紹介

地域企業は、人手不足・後継者難に加え、変化する事業環境への対応が大きな課題となっています。これらの経営課題の解決を人材確保の面から支援するため、当行は、2020年1月に「有料職業紹介事業」の許可を取得し、人材紹介業務を開始いたしました。

これまで、本部の人材紹介業務担当者が「経営幹部・管理職」や「専門職・技術職」などの人材マッチングを行ってまいりましたが、2023年4月からは、グループ会社のぐんぎんコンサルティングが他業銀行業高度化等会社の認可を取得し、人材ソリューション事業を行っています。

### ■ ビジネスマッチング

ビジネスマッチングは、当行の「情報」、「ネットワーク」を活用した「つなぐ」力を発揮できる分野です。

販路拡大やビジネスパートナーの発掘などのビジネスニーズに対し、当行の取引先や外部提携先、アライアンスの広域ネットワークを活用した他行の取引先とのマッ

チングに取り組んでいます。また、コンサルティング営業力の強化と事務の効率化を目的に「ぐんぎんビジネスマッチングシステム」を導入し、取引先のニーズ案件情報をデータベース化することで、より高度なビジネスマッチングの実現を図っています。2023年1月には、「ぐんぎんビジネスマッチングシステム」と同一システムを利用する金融機関等の間で、自社の取引先を紹介するサービスを開始しました。

### ■ 補助金サポート

経営革新等支援機関として、有益な補助金等の情報を提供するとともに、補助金申請書の作成ニーズがある取引先に対し、申請書作成支援に取り組んでいます。

また、取引先の潜在化する設備ニーズの喚起を図るため、有益な利子補給金の情報提供や利子補給金申請などの支援を行っています。



## 事業承継支援

地域企業の事業承継に係る経営課題は、技術の伝承やサプライチェーンの維持、雇用の継続など地域の持続可能性にも関わる大きな課題となっています。営業店と本部が協働し、取引先の事業承継・M&Aニーズの把握に努め、適宜、外部提携先とも連携しながら適切な提案・アドバイスを行っています。また、アライアンスにおいても事業承継やM&Aの分野での連携を進めています。

## 海外取引支援 ▶当行の海外拠点はP.17

当行の海外拠点（1支店、4駐在員事務所）や外部機関と連携しながら、取引先の海外展開を積極的に支援しています。コンサルティング営業部海外取引支援室が中心となり、海外進出を検討する取引先への拠点設立のアドバイスや現地口座開設サポートなどの実務支援、海外販路開拓を希望する取引先への現地候補先のリストアップや商談のアレンジなどをパッケージで提供しています。

前中期経営計画では、事業承継支援先数を計数目標に掲げ、3年間で約7,000先に対し自社株評価に関するプレゼンテーションを行いました。現中期経営計画の3年間は、プレゼンテーションを実施した取引先に対し、課題解決に向けた提案を行い、課題解決の具現化と当行の収益化を図っています。



ASEAN 自動車セミナー

## 個人のお客さまへの取組み

### 個人の安定的な資産形成をサポート

当行は、住宅取得、車購入や資産形成など、個人のお客さまのライフステージに応じた適切な商品・サービスを、適切なタイミング、適切なチャネルで提供し、お客さまの「豊かな未来」をサポートしています。

#### ■ 個人向け貸出業務

当行はお客さまの豊かな生活をサポートするため、住宅ローンや無担保消費者ローンの取組みを強化しています。ローン取引を起点に、お客さまのライフプランに応じた複合的なサービスを提供することは、お客さまとの生涯にわたる取引にもつながります。また、住宅ローンや無担保消費者ローンはリスク対比の収益性が高く、当行の経営体質強化の観点からも、積極的に取組む分野と考えています。

#### ■ 預かり金融資産業務

##### 資産管理型営業で資産形成をサポート

当行はお客さま本位の業務運営に関する取組方針に基づき、投資対象資産の分散や積立による資産形成提案等を行っています。長期的な視点で資産全体の運用効率の引き上げを目指す投資信託の提案や長期間の税制優遇が得られる「つみたてNISA」を活用した積立投信の提案など、「長期」・「積立」・「分散」を軸とした資産管理型営業により、お客さまの資産形成をサポートしています。また、地域の皆さまの金融リテラシー向上のため、お客さま向けセミナー実施等により金融・経済に関する情報提供を積極的に行ってまいります。

#### 人生100年時代への対応

人生100年時代において、「豊かなセカンドライフを過ごしたい」、「公的年金のみでは心配だ」など老後に向けた資産形成や生活資金に関する相談に、当行はお客さ

まのお客さまの多様なニーズに対応するため、ローンの商品性改善に取組むとともにお客さまの利便性向上や当行の業務効率化を図るため、デジタル化を進めています。無担保消費者ローンでは、新規契約の8割程度が、お申込みから契約手続きまでインターネットで完結する「WEB完結サービス」での契約となっています。また、住宅ローンでは、WEB上で契約手続きが行える「電子契約サービス」を導入しています。

まの資産状況や家族構成、ライフプランなどに基づいた総合的なコンサルティングで対応しています。

高齢者が直面し得るリスクの一つに、「長生きリスク」があります。当行は資産運用により資金の寿命を延ばしていくため、投資信託や、公的年金を補完する個人年金保険などの商品を取り揃え、「長生きリスク」への備えをサポートしています。

#### ぐんぎん証券との銀証連携

群馬銀行100%出資子会社のぐんぎん証券は2016年10月に開業し、群馬県内に本店営業部（前橋市）のほか4拠点（高崎支店、太田支店、渋川駐在事務所、桐生駐在事務所）を設置し、幅広い金融商品・サービスの提供や資産運用の提案を行っています。営業拠点は当行の店舗内に併設し、開業以来、当行と連携し、お客さま本位の資産形成サポートの実践および最適な金融ソリューションの提案を行っています。

## 次世代へつなぐサポート

当行は、少子高齢化社会を背景に資産を円滑に次世代へつなぐニーズが高まるなか、「遺言信託」、「遺言代用信託」、「遺産整理業務」の各種サービスを提供しています。本部の「ウェルスマネジメントグループ」(下記参照)に業務に精通した資産承継アドバイザーを配置するなど、お客さまの想いに寄り添ったコンサルティングを行っています。

### 遺言信託

遺言作成の疑問点に関する相談から、遺言の保管・執行までを行います。

### 遺言代用信託

ご資産を運用・管理し、相続発生時には必要な資金を指定のご家族に迅速に渡せるようにいたします。

### 遺産整理業務

遺産の調査や遺産分割協議書の作成支援などを行います。

## 休日営業拠点「個人相談プラザ」の拡充

「前橋」「高崎」「伊勢崎」「EAST」の4店舗で、平日にご来店が難しい資産形成層をはじめとしたお客さまの資産運用や保険の相談に応じています。また、「個人相談プラザ前橋」は、土・日曜日限定の相続相談窓口を設置し、専任スタッフがお客さまからの相続の疑問点に関する相談に応じています。

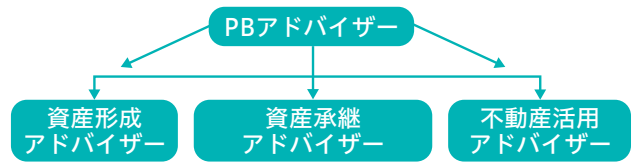


2022年12月に移転した個人相談プラザ高崎

## ウェルスマネジメントグループの取組み

当行は、ライフサポート部に「ウェルスマネジメントグループ」を設置しています。同グループには「資産形成」、「資産承継」、「不動産活用」の各分野の業務に精通した人材を配置し、お客さまから営業店に寄せられた資産運用や資産承継などの相談に対応できる態勢を整えています。本部のウェルスマネジメントグループと営業店が連携し、

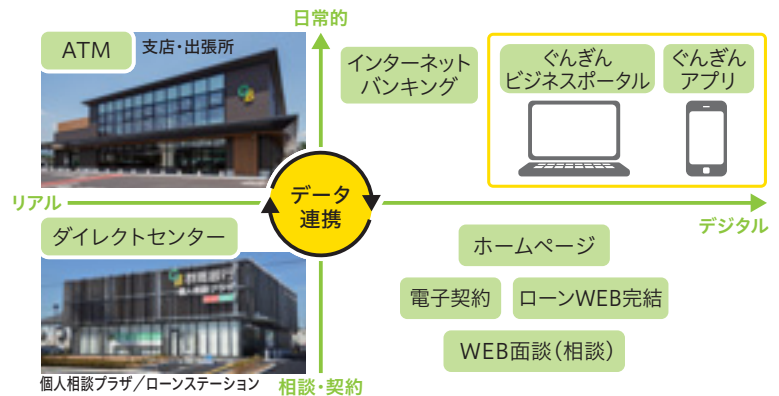
多様化・高度化するお客さまの課題解決に取り組んでいます。



## DigiCal 戦略の進化

「デジタル(Digital)」と「対面営業(Physical)」を効果的にミックスした、当行グループならではの顧客体験の提供を目指し、バンキングサービスと非金融サービスの連携に取り組んでいます。

2022年4月に個人のお客さま向けスマートフォンアプリ「ぐんぎんアプリ」の提供を開始しました。2023年9月末には投資信託取引機能、2024年1月にはデビットカード利用明細表示機能を追加予定です。また、法人のお客さま向けには、2023年7月に「ぐんぎんビジネスポータル」を導入しました。



### ぐんぎんビジネスポータル

複数の金融機関の取引状況を視覚的にわかりやすくグラフ化して表示する機能や、来店せずに各種手続きを可能とする機能、お客さまごとに最適な商品・サービスの情報が受け取れる機能などをWEB上でご利用いただけます。



画面イメージ

お申込みは群馬銀行ホームページから

<https://www.gunmabank.co.jp/hojin/portal/>



### ぐんぎんアプリ

「お客さまの最も身近な当行との接点」としてご利用いただくメインチャネルと位置付け、2022年4月に提供を開始しました。

#### 〈主な機能〉

- ①残高・入出金明細照会
- ②振込・振替
- ③税金・料金支払
- ④引落予定明細照会・通知

ダウンロードはこちら ▼ 詳細・使い方など ▼



App Store  
ダウンロード

Google Play  
ダウンロード



ぐんぎんアプリ  
特設ページ

## 群馬銀行グループ

群馬銀行グループは連結子会社 6 社、持分法適用子会社 2 社および持分法適用関連会社 1 社で構成され、銀行業を中心に幅広い金融商品・サービスを提供しています。中期経営計画では、パーパス実現を目指し、グループ総合力の発揮による新事業の探索と既存事業の深掘りに取り組んでおります。

会社名	※	主要業務内容
群馬中央興業株式会社	連・子	物品等輸送、現金自動設備の保守管理業務等
ぐんぎん証券株式会社	//	証券業務
ぐんぎんコンサルティング株式会社	//	コンサルティング、人材ソリューション、地域商社、マーケティング・広告事業
ぐんま地域共創パートナーズ株式会社	//	ファンドの組成・運営
ぐんぎんリース株式会社	//	リース業務
群馬信用保証株式会社	//	保証業務
株式会社群銀カード	持・子	クレジット業務
ぐんぎんシステムサービス株式会社	//	システムの開発・販売
スカイオーシャン・アセット マネジメント株式会社	持・関	投資信託委託業務

(注) ※ 連・子 (連結子会社)、持・子 (持分法適用子会社)、持・関 (持分法適用関連会社)

## 外部連携

群馬銀行グループは「TSUBASA アライアンス」「フィンクロス・パートナーシップ」等の広域連携や「群馬・第四北越アライアンス」「りょうもう地域活性化パートナーシップ」(足利銀行)等の地域連携、県内の金融機関との連携に取り組んでいます。外部の力を活用し、当行グループの「つなぐ」力を強化してまいります。

### TSUBASA アライアンス



参加銀行 千葉銀行 第四北越銀行 中国銀行 伊予銀行  
東邦銀行 北洋銀行 武蔵野銀行 滋賀銀行  
琉球銀行 群馬銀行 (参加順)

### フィンクロス・パートナーシップ



参加銀行 池田泉州銀行 きらぼし銀行 群馬銀行  
山陰合同銀行 四国銀行 千葉興業銀行  
筑波銀行 福井銀行 (五十音順)

### 群馬・第四北越アライアンス



群馬・第四北越 アライアンス

### りょうもう地域活性化パートナーシップ



### 群馬県内の金融機関との連携

当行は群馬県内の金融機関との連携を積極的に推進しています。

#### 【近年の主な取組み】

- 2020年3月 群馬県・東和銀行との「ぐんまの未来共創宣言」署名  
高崎信用金庫・桐生信用金庫・しののめ信用金庫との「M&Aに係る業務提携契約」締結
- 2022年8月 しののめ信用金庫とのキャッシュコーナー一部共同化
- 2022年9月 桐生信用金庫とのATM提携

# サステナビリティへの取り組み

## 群馬銀行グループ SDGs 宣言

2019年2月に策定し、2022年4月に改定した「群馬銀行グループ SDGs 宣言」では、当行グループの事業内容や営業エリアから、特に貢献が可能な SDGs 10 目標を中心に4つの重点課題を定め、事業活動を通じた社会・環境課題等への取り組みを進めています。





また、当行グループは、パーパス「私たちは『つなぐ』力で 地域の未来をつむぎます」の実現に取り組んでいくことが、SDGs 達成への貢献および持続的な社会の実現と経済的価値の創造につながっていくと考えています。



## 群馬銀行グループ SDGs 宣言 (GB Sustainability Policy 2030)

私たちは、地域社会の発展を常に考えた事業活動の推進を通じて、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に貢献し、持続可能な社会の実現と経済的価値の創造に努めてまいります。



重点課題	取組方針	主な取組み
地域経済の持続的発展	地域の事業者の皆さまの成長支援や、地域活性化に向けた取組みを充実させるとともに、お客さまの多様なニーズに応じた金融サービスの提供により、地域経済の持続的な発展をサポートします。次世代の担い手を育成するため、地域の皆さまの金融リテラシー向上に向けた金融経済教育の充実や、持続可能なインフラ構築に向けた地域産業のイノベーション支援に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 事業承継課題への網羅的な取組み</li> <li>● 資産形成や資産承継等に資する金融サービスの提供</li> <li>● 高校や大学等での金融経済教育の実施</li> <li>● グループ会社による出資とハンズオン支援を通じた地域活性化への貢献</li> </ul> 
地球環境の保全と創造	環境保全や美しい環境の創造に取り組むお客さまの支援や、私たちの事業における環境負荷の低減に努めるとともに、気候変動対策の充実に取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「温室効果ガス排出量 2030 年度ネットゼロ」に向けた取組み</li> <li>● サステナブルファイナンスの推進</li> <li>● お客さまの脱炭素化の支援</li> <li>● ぐんぎん財団を通じた環境保全活動支援</li> </ul> 
多様な人材の活躍推進	女性や若年層、シニア層などすべての職員が生き生きと活躍できる職場づくりに向けて、役職員の多様性を高め、その活躍に向けた育成や柔軟な働き方の実現に取り組めます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 「L-NEXT」(女性活躍促進チーム)などダイバーシティ&amp;インクルージョンの推進に向けた取組み</li> <li>● 役職員一人ひとりの Well-being の向上に向けた取組み</li> </ul> 
パートナーシップの推進	地方公共団体や法人、個人のお客さまなどとのパートナーシップにより、地域全体で持続可能な社会の実現に向けて取組みます。	<ul style="list-style-type: none"> <li>● ぐんぎん SDGs 私募債による啓蒙と SDGs に資する活動支援</li> <li>● 地方公共団体等との連携による地域全体での SDGs 推進</li> </ul> 

## 環境方針

群馬銀行は、2009年5月に制定・公表した「群馬銀行環境方針・環境行動基準」に基づき、自ら環境負荷の低減に取り組むとともに、事業活動を通じて環境保護に貢献できる金融商品・サービスを提供するほか、ぐんぎん財団を通じて環境保全活動の支援や環境保全教育を実施するなど、環境保全に関する取り組みを続けています。

※詳細については、こちらよりご覧いただけます。



## 気候変動への取組み

群馬銀行は、「群馬銀行グループSDGs宣言」の重点課題の1つである「地球環境の保全と創造」に向けた取組みとして、2020年7月にTCFD提言への賛同を表明し、気候変動が当行の経営にもたらす影響等の分析を実施するとともに、当行の温室効果ガス排出量削減や脱炭素化に取組むお客さまへの支援を行っています。

地域の基幹産業である自動車セクターについては、電動化等の急速な進展により取り巻く環境が大きく変化していることから、移行リスクの対象セクターとしてシナリオ分析を行っています。また、地域の自動車サプライヤーに対する個別のエンゲージメントを通じて、各サプライヤーに応じた中長期的な伴走支援に取組んでいます。

気候変動への取組みを強化することで、地域の未来をつむいでいきたいと考えています。



※詳細については、こちらよりご覧いただけます。

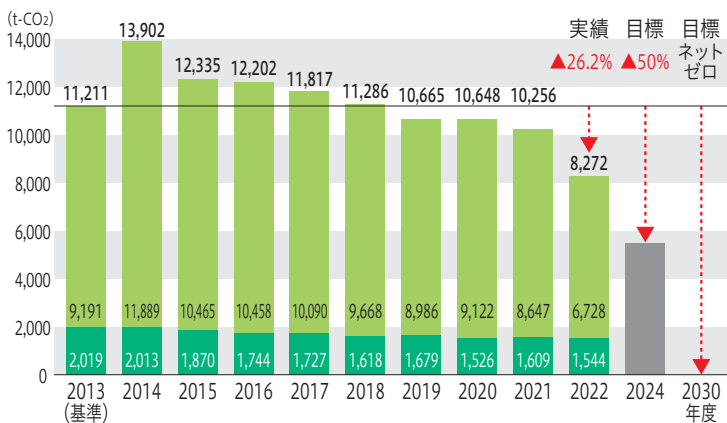
## 温室効果ガス排出量

脱炭素社会の実現や社会の持続的発展に貢献していくため、当行における温室効果ガス排出量削減目標を設定しています。2022年度の温室効果ガス排出量は、8,272t-CO<sub>2</sub>であり、2013年度比26.2%の削減となりました。当行ではこれまで、当行本店ビルや電算センターの電力をすべて再生可能エネルギー由来の電力に切り替え、電力使用に伴う温室効果ガス排出量実質ゼロの建物としております。

今後も、店舗へのPPAによる太陽光発電設備設置やネーミングライツを取得した「ぐんぎん尾瀬片品発電所」により、再生可能エネルギーの地産地消に取組んでいきます。また、当行では、温室効果ガス排出量の計測範囲の拡大に向けて取組んでおり、今年度、当行行員の出張・通勤および投融資に伴う排出量の試算を行いました。今後も、計測範囲の拡大等の検討を進めてまいります。

### 【温室効果ガス排出量】

- スコープ1: 当行自らによる直接排出(重油、都市ガス、ガソリン等)
  - スコープ2: 他社から供給されたエネルギー使用による間接排出(電気、冷水、蒸気等)
- ※省エネ法の定期報告書の基準に準拠し算出。ガソリンにおける排出量は、年間平均ガソリン単価、排出計数を用いて算出。



※温室効果ガス排出量の算出範囲は、当行国内拠点におけるスコープ1、スコープ2

(単位: t-CO<sub>2</sub>)

計測項目		2021年度	2022年度
スコープ3	カテゴリ1の一部 (コピー用紙購入)	263	249
	カテゴリ6 (出張)	43	58
	カテゴリ7 (通勤)	1,069	1,013
	カテゴリ15 (投融資)	-	8,796,632

### 目標

2024年度 2013年度比50%削減  
2030年度 ネットゼロ

### 主な取組み

2022年 4月	本店ビルの電力をすべて再生可能エネルギー由来の電力に切り替え
11月	全店 (一部対象外店舗を除く) に電気自動車導入を決定。順次導入中
2023年 4月	電算センターの電力をすべて再生可能エネルギー由来の電力に切り替え
10月	高崎田町支店の PPA 電力供給開始予定
2024年 1月	北毛地区9店舗における全使用電力、および電算センターの一部電力を「ぐんぎん尾瀬片品発電所」由来の再生可能エネルギーに切り替え予定

### 【計測方法】

計測にあたっては、環境省・経済産業省「サプライチェーンを通じた温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.5)」および、環境省「サプライチェーンを通じた組織の温室効果ガス排出等の算定のための排出原単位データベース (ver.3.3)」を使用。

カテゴリ15については、PCAFスタンダードの計測手法に基づき試算。

## かんとう YAWARAGI エネルギー株式会社

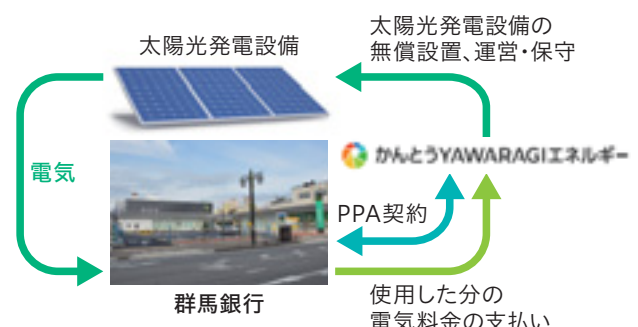
### 再生可能エネルギーを通じて地域の脱炭素化を図る

2022年7月、100%出資子会社であるぐんま地域共創パートナーズ株式会社が運営するファンドを通じて、地域発電会社「かんとう YAWARAGI エネルギー株式会社」を地域の事業者と共同で設立しました。

当社の設立目的は、再生可能エネルギー電源の開発事業を通じ、地域の脱炭素化に貢献していくことです。

当行では当社と PPA※契約を締結し、当行高崎田町支店と第四北越銀行高崎支店による共同店舗の屋上への太陽光発電設備の設置を進めています。

### 【オンサイト PPA スキーム図】



※ PPA: Power Purchase Agreement (電力販売契約) の略。企業 (電力需要家) の屋根や遊休地に発電事業者が無償で発電設備を設置し、発電した電気を企業が使用することで、需要家が発電設備を保有することなく再生可能エネルギー利用が実現できる仕組み。発電設備が需要家の敷地内 (オンサイト) にあるスキームを、オンサイト PPA という。

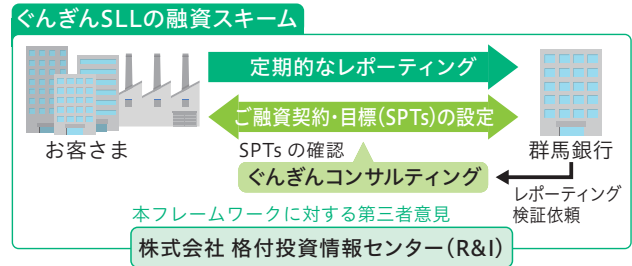
## サステナブルファイナンスへの取組み

気候変動や人口減少等の社会課題への対応が急務となるなかで、社会課題の解決に資する資金やアドバイスを提供する金融（サステナブルファイナンス）の重要性が高まっています。

当行は、2030年度までのKPIとして中長期的なサステナブルファイナンス累計実行額目標を設定し、お客さまのフェーズに合わせた適切なアクションを行い、サステナビリティ・リンク・ローンやぐんぎんSLL、事業承継を切り口としたストラクチャー付コベナンツ融資、SDGs 私募債、再生可能エネルギー事業向け融資、震災時・豪雨災害時元本免除特約付き融資などのサステナブルファイナンスや各種ビジネスマッチングにつなげていきます。

### 「ぐんぎんSLL」

2022年6月、お客さまのSDGsやESG戦略に整合した取組目標であるサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPTs）を設定し、その達成状況に応じて、金利が変動する仕組みの融資商品である自行評価型サステナビリティ・リンク・ローン「ぐんぎんSLL」の取扱いを開始しました。



## 「自動車セクター」への取組み

### 自動車産業を取り巻く環境の急速な変化

自動車産業を取り巻く環境は、電動化の急速な進展など大きく変化しており、地域のサプライヤーも取扱製品の電動化対応や、製造過程における温室効果ガス排出量削減、さらには部品点数減少に伴う新分野への進出、業態転換など、さまざまな対応に迫られつつあります。

### 取引先のサポート態勢を拡充し中長期的な伴走支援

当行では、自動車関連産業の持続可能性の向上に向けて、自動車メーカーOBの招聘などによるサポート態勢の拡充や県内サプライヤーのデータベースの構築、

SUBARU系サプライヤーを中心とした、各社の保有技術・設備や特性などの個別ヒアリングを実施してきました。

また、2022年度には環境省「令和4年度ESG地域金融促進事業」の支援策金融機関として採択され、ヒアリング結果を踏まえたお客さまとの課題共有に向けた支援を受けました。

今後も、電動化への対応や生産性向上に向けたサポートなど、各サプライヤーに応じた中長期的な支援に向け、外部機関とも的確に連携して取組んでいきます。

## SDGs 取組支援サービス

2022年9月より、お客さまのSDGsへの取組状況を評価する「SDGs取組支援サービス」を取扱開始しました。所定の「ヒアリングシート」を通してお客さまのSDGsの取組状況を客観的に評価し、「フィードバックシート」によりお客さまの「強み」と「弱み」を明らかにするものです。これまでに181社にご利用いただいています。（2023年3月末現在）

**SDGsの理解・必要性啓発**

**優先課題の決定**

**課題解決に「つなぐ」ソリューション提案**

**ソリューション提案に基づいたファイナンス・補助金等**

**SDGs 取組支援サービス**

- ヒアリングシートに基づき、現状の取組み状況を確認
- フィードバックシートにて取引先と対話を行い、課題等を把握
- 取引先の事業に応じた「SDGs宣言書」の策定を支援
- 取組姿勢の表明により「社会的信頼」と「従業員満足の向上」に貢献

環境	人権・労働	公正な事業慣行 組織体制	製品 サービス	社会貢献 地域貢献
----	-------	-----------------	------------	--------------

項目	主な内容	グループ会社
SDGs 関連コンサルティング	SDGsに関するKPIの設定、研修等	ぐんぎんコンサルティング
脱炭素関連		
温室効果ガス排出量測定・可視化	温室効果ガス排出量可視化クラウドサービス	
カーボン・オフセット	J-クレジットの購入	
再生可能エネルギー設備導入	太陽光設備等導入支援	
その他社会課題解決に資する支援		
事業承継	事業承継計画策定支援 資本金の供給、ハンズオン支援	ぐんぎんコンサルティング ぐんま地域共創パートナーズ
ハイレベル人材の採用	人材紹介業務	ぐんぎんコンサルティング
BCPコンサルティング	BCP策定支援、BCP訓練の実施支援	
人事労務・人材育成研修	人事労務規定の策定、人材育成研修	ぐんぎんコンサルティング
需要予測サービス	気象や販売データ等を用いた需要予測	

サステナブルファイナンス	サステナビリティ・リンク・ローン、ぐんぎんSLL 事業承継を切り口としたストラクチャー付コベナンツ融資、SDGs 私募債 再生可能エネルギー事業向け融資 震災時・豪雨災害時元本免除特約付き融資、等
補助金サポート	工事・事業場における先導的な脱炭素化取組推進事業 省エネルギー投資促進支援事業費補助金 太陽光発電設備等の価格低減促進事業
利子補給	省エネルギー設備投資に係る利子補給金

# 社会貢献活動

## ぐんぎん財団の取組み

1995年に設立した「群馬銀行環境財団」は2022年11月に「ぐんぎん財団」へ名称を変更し、従来の「環境保全事業」に加え「社会福祉事業」にも取り組んでいます。

助成活動として「ぐんぎん財団環境教育賞」「ぐんぎん財団環境賞」の表彰、啓発活動として「エコ・キッズ・キャンプ」「環境探検隊」を実施しています。

また「みんなであつなぐ 未来プロジェクト～ Everyone has a dream～」を実施し、毎年テーマを決めて地域の豊かな未来につながる活動を支援しています。2022年度はこども食堂への支援をテーマとし、「こども食堂ネットワークぐんま」へ300万円の寄付を行いました。

今後も事業活動を通して、地域社会の持続的発展に寄与してまいります。

## 生物多様性への取組み

### 「ぐんぎんの森」整備活動

2011年から環境保全活動の一環として、群馬県と締結した「県有林整備パートナー事業実施協定」により指定された森林を「ぐんぎんの森」と命名し、その整備・保全活動に取り組んでいます。また、新入行員研修の一環として森林保全活動を体験し、啓発を行っています。

### 尾瀬保護財団への寄付

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を尾瀬の環境保全活動を行う尾瀬保護財団に寄付する自然環境保護ファンド「尾瀬紀行」を取扱っています。また、株主優待「寄付コース」による同財団への寄付も取扱っています。

●群馬銀行グループによる尾瀬保護財団への寄付累計額  
…18,217千円

## その他の取組み

### 金融教育への支援

#### 群馬大学への講師派遣

2017年度より群馬大学との連携講座を実施しています。2022年度は講師3名を派遣し、金融リテラシーについて講義を行いました。

#### 「金融教育授業」の実施

地域の金融リテラシー向上に貢献するため、学校に赴き行員による金融教育授業を行っています。

また、高校生を対象に、若手行員の研修の一環としても実施しています。(2022年度はオンラインで実施)

#### 小中学生・高校生の体験学習の受入れ

地域の小中学校の児童・生徒の体験学習を各営業店で、高校生の企業見学を本店で受け入れています。

#### エコノミクス甲子園

高校生が楽しみながら金融経済に触れ、金融知力を身につける機会を提供するため、全国高校生金融経済クイズ選手権「エコノミクス甲子園」の群馬大会を主催しています。

### 芸術・文化活動への支援

群馬交響楽団に対し、定期演奏会を協賛するなど活動を支援しています。

なお、群馬交響楽団は地域社会に密着した芸術活動を行っており、定期演奏会のほか、小中学生を対象とした移動音楽教室を開催するなど、地方における音楽文化の向上に貢献しています。

### スポーツ活動への支援

バレーボールのVリーグ女子2部(V2)に参戦している「群馬銀行グリーンウイングス」は、昨シーズン準優勝(2季連続)を果たしました。他にも、バレーボール教室などを通して地域社会への貢献活動も積極的に行っています。

また、当行は毎年11月に行われる「ぐんまマラソン」を協賛し、地域のスポーツイベントの支援も行っています。

### 群馬県世界遺産・ぐんま絹遺産継承基金への寄付

当行と委託会社が受領する信託報酬の一部を世界文化遺産「富岡製糸場・絹産業遺産群」の保護活動のために寄付を行う投資信託「群馬の絹遺産」を取扱っています。また、株主優待「寄付コース」による基金への寄付も取扱っています。

●群馬銀行グループによる群馬県世界遺産・ぐんま絹遺産継承基金への寄付累計額…9,298千円



【群馬銀行グリーンウイングス】  
2022-23シーズン

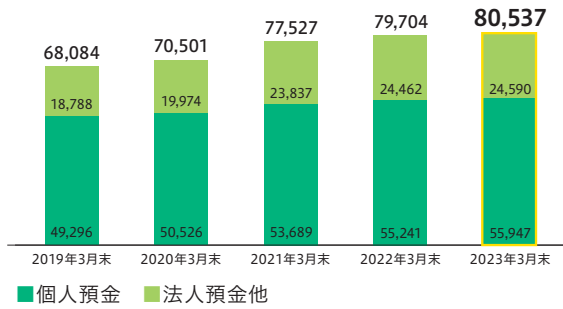
# 財務情報ハイライト

## 預金残高

2023年3月末残高 **8.0兆円**

(単位: 億円)

(地方銀行62行中12位)

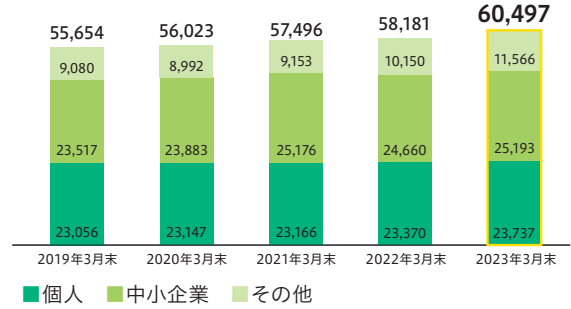


## 貸出金残高

2023年3月末残高 **6.0兆円**

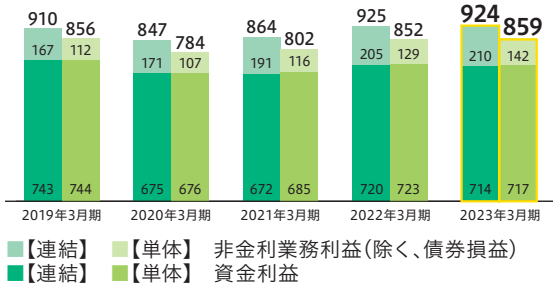
(単位: 億円)

(地方銀行62行中11位)



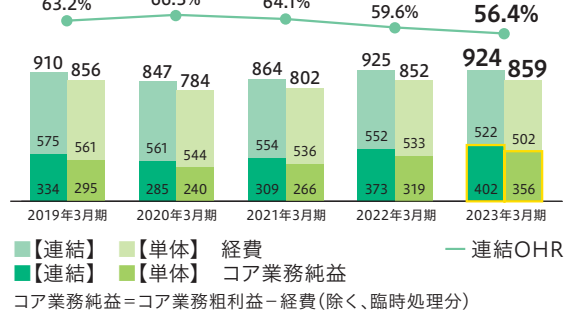
## コア業務粗利益の内訳

(単位: 億円)



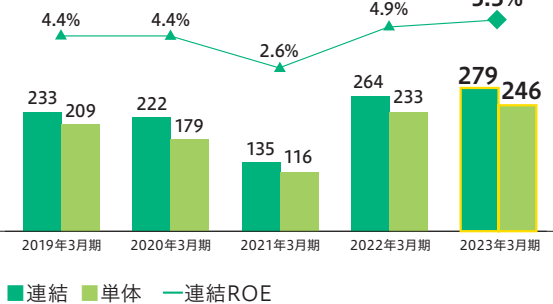
## コア業務純益

(単位: 億円)



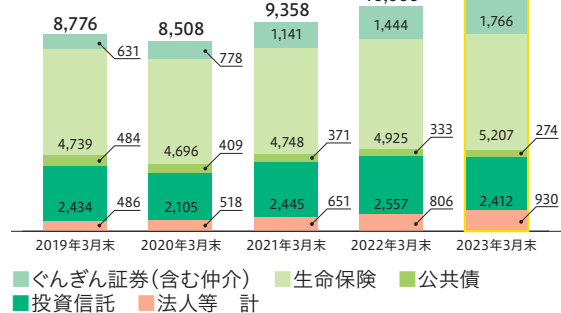
## 当期純利益

(単位: 億円)

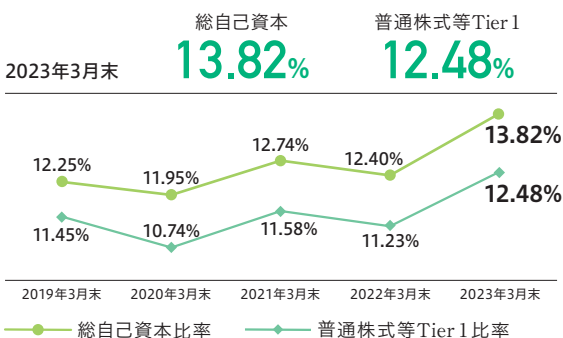


## 預かり金融資産残高(含む、ぐんざん証券)

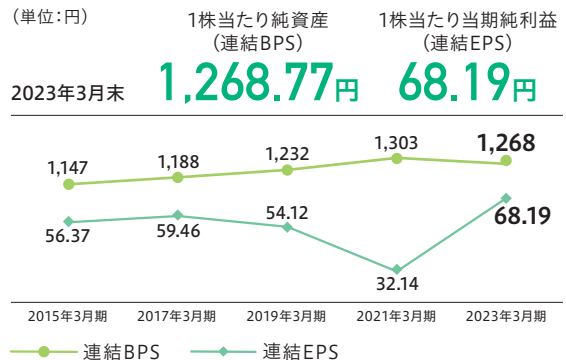
(単位: 億円)



## 連結自己資本比率(国際統一基準)



## 1株当たりの指標(連結)





# 非財務情報ハイライト

## 地域経済の持続的発展

### ビジネスマッチング成約件数

2022年度  
**1,000**件  
(目標3,000件)  
※2022~2024年度累積

### 事業承継課題解決件数

2022年度  
**330**件  
(目標600件)  
※2022~2024年度累積

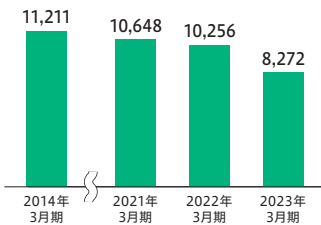
### 相続関連業務成約件数

2022年度  
**298**件  
(目標1,000件)  
※2022~2024年度累積

## 地球環境の保全と創造

### 温室効果ガス排出量

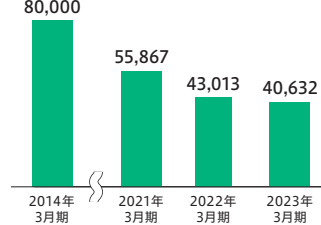
(単位:t-CO<sub>2</sub>)



**26.2%減**  
(2013年度比)

### 紙(コピー用紙)使用量

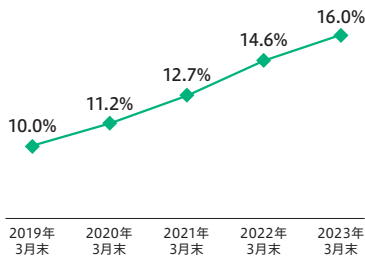
(単位:千枚)



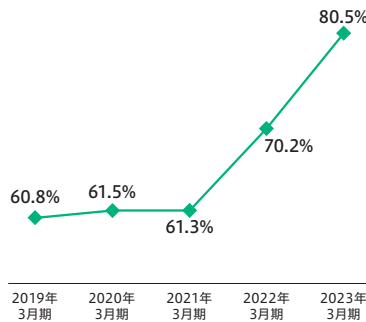
**49.2%減**  
(2013年度比)

## 多様な人材の活躍推進

### 女性管理職の割合



### 有給休暇取得率



### ITパスポート取得者数

2024年度 目標 1,000名達成

**1,073**名  
(2023年5月末)

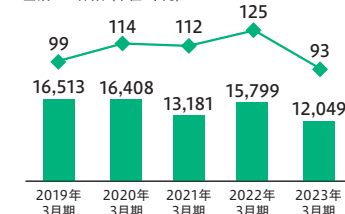
## パートナーシップの推進

### 群馬県内の 地公体との連携協定

**13**  
(2023年3月末)

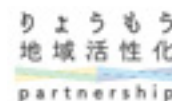
### SDGs 私募債等による寄付 (累計額103,082千円/678件)

■金額 一件数 (単位:千円)



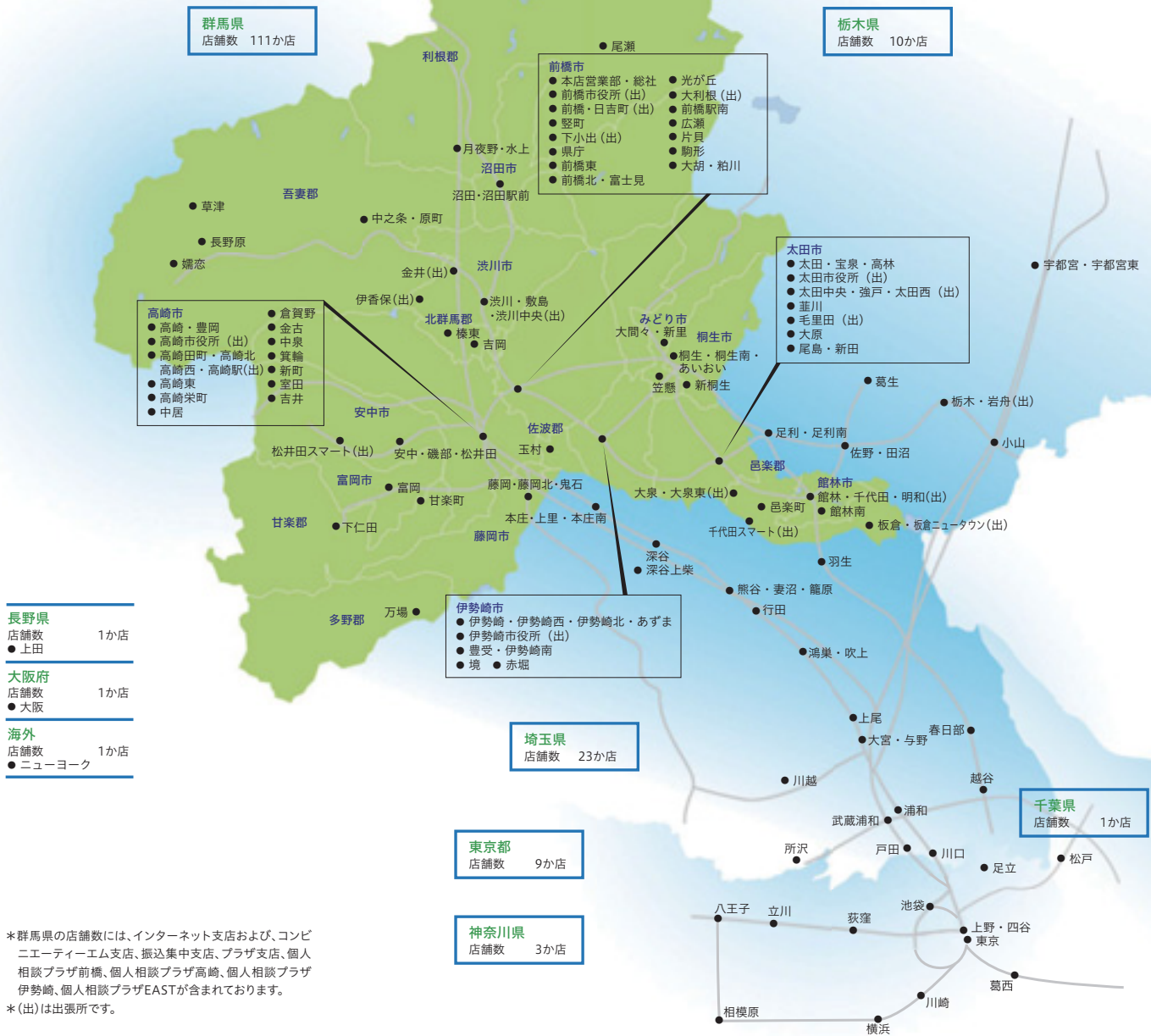
※「ぐんぎんSDGs私募債『グリーン&フードサポートプラン』」の寄付(11,080千円/81件)については2023年度分として取扱うため、上記には含んでおりません。

### 外部連携



# 店舗の概要

## 国内拠点



\*群馬県の店舗数には、インターネット支店および、コンビニエーターエム支店、振込集中支店、プラザ支店、個人相談プラザ前橋、個人相談プラザ高崎、個人相談プラザ伊勢崎、個人相談プラザEASTが含まれております。  
\*(出)は出張所です。

## 個人相談プラザ



個人相談プラザ前橋



個人相談プラザ高崎

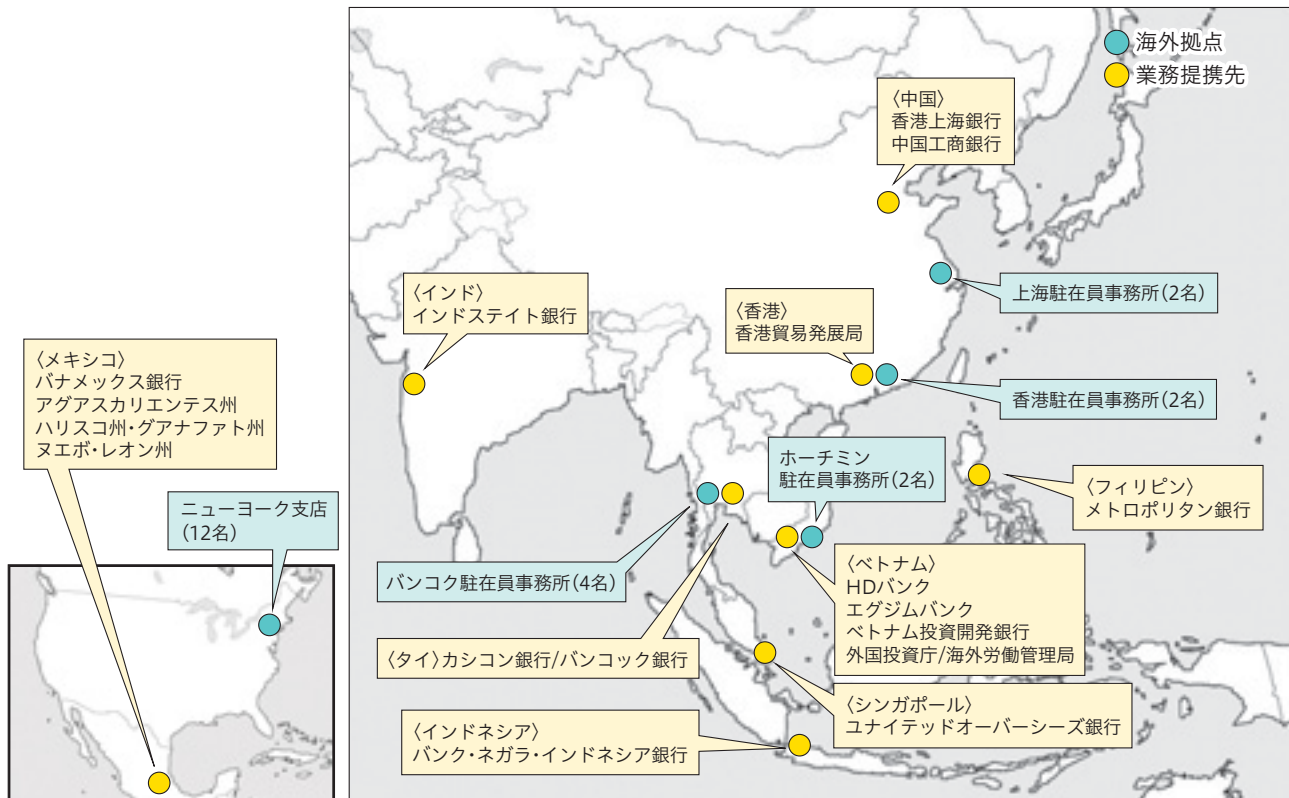


個人相談プラザ伊勢崎



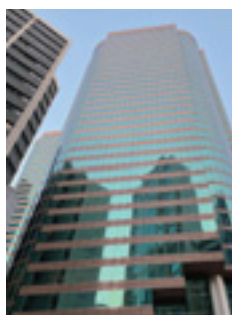
個人相談プラザ EAST  
(大泉支店内)

## 海外拠点と業務提携先



### ニューヨーク支店

780 Third Avenue,  
6th Floor New York,  
NY 10017 U.S.A.



### 香港駐在員事務所

Suite 1803, Tower 1, The Gateway,  
Harbour City, 25 Canton Road,  
Tsim Sha Tsui, Kowloon,  
Hong Kong



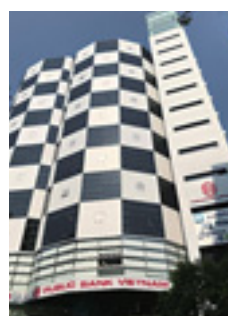
### 上海駐在員事務所

18th Floor, Hang Seng Bank Tower,  
1000 Lujiazui Ring Road,  
Pudong New Area, Shanghai,  
P.R. China



### バンコク駐在員事務所

689 Bhiraj Tower at  
EmQuartier, 16th Floor Unit  
1612, Sukhumvit Road,  
Klongton-nue, Wattana,  
Bangkok 10110 Thailand



### ホーチミン駐在員事務所

Zen Plaza 904, 54-56 Nguyen  
Trai St., Ben Thanh ward, Dist. 1,  
Ho Chi Minh City, Vietnam



---

発行 2023年8月  
群馬銀行 総合企画部 広報室  
〒371-8611 群馬県前橋市元総社町194  
電話 027-252-1111(代表)  
<https://www.gunmabank.co.jp/>

---